



平和を実現する

ひかり組の合宿が終わりました。たんぼ組・ばら組のお家の皆様にもたくさんご協力をいただきました。おかげさまで7日の夕方から夜にかけて全員が揃い、何とか全日不参加という子どもがなく2日間を過ごすことができました。ありがとうございます。合宿の朝、登園してきたひかり町の面々は、お家の人と別れるとスタスタと階段を上がりホールのひかり町へ行ってしまいました。健康チェックなどの伝達事項を済ませて、さて改めて暫しのお別れを、と考えていたお家の方たちは拍子抜けの様子でした。「あれっ、行っちゃったんだ。なんか寂しい・・・」そこには、もう親の手をしっかりと握って離さなかった足元のおぼつかない子どもたちの姿はなく、まっすぐ前を向いて仲間と手をつないで歩き始めた子どもたちの姿がありました。怒られてしまうかもしれませんが、前を向き明日に向かって歩き出している子どもたちと、いつまでもそばに居て欲しいと心のどこかで願っている親と、それは対照的な光景でした。来年は久々に大規模な(?)合宿になりそうです。これもまた楽しみです。

さて1学期最後の1週間。梅雨明けの園庭には毎日強い陽射しが降り注ぎ、子どもたちは水遊びに興じていました。幼稚園に来るだけでもドキドキしていたたんぼ組の子どもたちが、仲間といふことを楽しいと思いはじめているその笑顔を見ながら、様々な心配はありながらも、こうして今日もまた変わらぬ幸せな時間を過ごしている事に感謝しなければならないと気付かされます。先日、撮りためていた保育の記録を整理していました。すると、あの震災の日、地震が起こる数時間前の映像が記録されていました。卒業式前日の園庭でくろーばー組が“最後のリレー”をしています。楽しみながら、そして明日で卒業という時を惜しみながら一生懸命走る姿と、「がんばれー！」と声援を送る小さい組の姿が映っていました。それは「平和」な時間でした。しかし、その数時間後、あの大地震が起こり、千葉に住む私たちの日常でさえ一変しました。当り前だった事のひとつひとつが決して当り前でなかったことを思い知らされました。常に大地が揺れている事が、私たちをこんなに不安にさせるのだということを知りました。電気・水道・食料・日用品・ガソリン・・・あって当たり前は、たくさんの条件が整えられて初めて成り立っていることだと知りました。

あれから4カ月が過ぎ、私たちの日常からは、震災の記憶がどんどん薄れていっています。子どもたちが水遊びに興じる園庭には穏やかで「平和」な時間が流れているように感じます。それは、震災数時間前の子どもたちを記録した映像の穏やかで「平和」な光景と何ら変わりはないように見えます。しかし、私たちは知っています。この「平和」は多くの人の働きの上に成り立っている事を。私たちがあの時、明日が「平和」な日でありますようにと祈り求めたように、日本中の、いえ世界中の人たちが同じように祈り求め行動した。その上に成り立っている「今日の平和」なのです。

～平和を実現する人々は、幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる。～

(マタイによる福音書5章9節)

明日が「平和」であるように、私たちはそれを実現しようと祈り求め行動する。神様はそのような人を幸いであると仰り、神の子と呼ばれると聖書には書かれています。「平和」は黙ってそこにいて与えられるのではなく、私たちが実現していくものであることを、心に刻みたいと思います。同時に「平和な日常」がまだ戻らない多くの隣人の苦しみを忘れてはならないと思います。1日も早く穏やかで「平和」だった日々がまた戻ってくる事を共に祈り、それを実現していかなければならないのです。